

**石橋湛山** {東洋経済新報}で長くエコノミストとして活躍、<敗戦>後に首相の地位につくも、病気で深く引退した。

いしばしたんざん

秩父事件・1884 = 日蓮宗の最高学府東京大教院の助手でのちの身延山久遠寺法主杉田湛誓の長男として、東京に生まれた。  
内閣発足・1885 = 1歳：父が山梨の寺の住職に転じたことに従い、山梨で育つ。

**帝国憲法公布**1889 = 5歳：

郡司千島探検1893 = 9歳：

**日清戦争始**・1894 = 10歳：父が本覚寺の住職に転じたため、長遠寺住職に預けられる。

**日清戦争終**・1895 = 11歳：通常より2つ若く山梨県立尋常中学校に入学。

この間、2度落第したことで、**大島校長にめぐりあい、一生を支配するような影響を受けた。**

教科書疑獄・1902 = 18歳：湛山と改名。中学校を卒業。第一高等学校を受験するが、2度失敗し、

日比谷公園・1903 = 19歳：早稲田大学高等予科に編入。

**日露戦争終**・1905 = 21歳：

早大文学部哲学科で**プラグマティストの田中王堂からも強い影響を受ける。**

**韓国反日暴動**1907 = 23歳：早稲田大学文学科を首席で卒業。特待研究生として宗教研究科へ進級。

**アヲ洋** 創刊・1908 = 24歳：修了して、{東京毎日新聞}に入社し、言論人の道を歩み始めるが、

**伊藤博文暗殺**1909 = 25歳：退社。麻布の歩兵第三連隊に入営。

韓国併合・1910 = 26歳：軍曹に昇進して除隊。

大逆事件判決1911 = 27歳：**\*東洋経済新報社に入り、{東洋時論}の編集を担当。以後35年に及ぶ言論活動の拠点となる。**

**明治天皇没**・1912 = 28歳：若井うめと結婚。{東洋時論}が廃刊、\_{東洋経済新報}記者に変わり、ジャーナリストとして飛躍。

21ヶ条要求・1915 = 31歳：**東洋経済新報社の合名社員に選ばれる。**

**ロシア革命**・1917 = 33歳：早稲田大学騒動で、学長側の中心として活動。

**ハルビン条約**・1919 = 35歳：普通選挙期成同盟会結成に参加、デモの副指揮者となる。この年、朝鮮で抵抗運動が起こり官憲が弾圧すると、早速社説で警告するなど、国際政治的な面から、一貫して植民地放棄を唱え続ける。

大暴落・1920 = 36歳：

原敬暗殺・1921 = 37歳：太平洋問題研究会を設立し、幹事役となる。

護憲三派圧勝1924 = 40歳：鎌倉町議会議員に当選。**東洋経済新報社主幹に就任。**

治安維持法・1925 = 41歳：**\*東洋経済新報社代表取締役専務に就任。**

**同社の急進的自由主義の伝統を継承、内における民主的政治体制の樹立と、外における帝国主義外交の廃止、とくに植民地放棄の主張をもって、大正デモクラシーの思想的頂点に立った。早くからケインズ理論に学び、**

**世界恐慌**・1929 = 45歳：

海軍軍縮条約1930 = 46歳：**浜口雄幸内閣の金解禁は経済界に打撃を与えると反対し、経済評論家としての名声を高めた。**

**満州事変**・1931 = 47歳：経済倶楽部を設立。

満州事変後、**戦争拡大に反対し、言論の自由を唱えつづけた。**

帝人疑獄事件1934 = 50歳：月刊英文雑誌「オリエンタル・エコノミスト」を創刊、主幹を兼ねる。

芥川直木賞始1935 = 51歳：内閣調査局委員に任ぜられる。

戦前の困難な時代に透徹した目を持ち続け、

**日中戦争始**・1937 = 53歳：

健保+総動員 1938 = 54歳：

**言論圧迫に際しても良心に反する行動をとらぬよう社員に訓辞。**

第二次大戦始1939 = 55歳：

**東洋経済研究所を設立、所長に就任。朝鮮・満州の旅に出、初めて大陸に渡り、なお警告し続け、**

大政翼賛会・1940 = 56歳：

**日米開戦**・1941 = 57歳：

**社長制新設に伴い、社長に就任。密かに戦後の秩序回復の研究に着手、「四つの島・8000万の人口」による再建構想をまとめ、大蔵省に働きかけて戦時経済特別調査委員会を設置、委員に就任。空襲で居宅焼失。戦火を避けて編集局の一部を秋田に疎開し、家族を伴って移動。敗戦直後、GHQより意見書の提出を求められる。日本自由党顧問に就任。**

新憲法公布・1946 = 62歳：

山川均主唱の民主人民連盟世話人に参加。戦後初の総選挙に立候補したが、落選。**\*第1次吉田茂内閣蔵相としてケインズ流の積極財政を展開。35年つとめた東洋経済新報社を退職し、政界に転じる。**

新憲法施行・1947 = 63歳：

**代議士に初当選直後、占領軍に積極財政主義をきられ、公職追放となる。自由思想協会を設立。**

**独立回復**・1951 = 67歳：

**追放解除、自由党に復党。代議士に返り咲き、鳩山一郎を助け吉田茂と対立。立正大学学長に就任。**

メデー事件・1952 = 68歳：

**河野一郎とともに自由党から除名処分を受けるが、**

TV放送始・1953 = 69歳：

**自由党が分裂し、鳩山自由党の政策審議会長になる。**

自衛隊発足・1954 = 70歳：

日本国際貿易促進協会を設立。**岸信介とともに自由党から除名処分を受け、日本民主党結成に参画。鳩山内閣の通産相に就任。自由民主党第2代総裁に当選、首相となり、自主独立路線、1千億円減税など清新な政策を掲げたが、なべ底不況・1957 = 73歳：**\*その矢先、病のため辞任。進退のいさぎよさが賞賛された。その後は、****

美智子妃・1959 = 75歳：

中国を訪問して、毛沢東、周恩来らと会談し、共同声明を発表、

**安保闘争**・1960 = 76歳：日ソ協会会長、

**東京リトル** 1964 = 80歳：

日本国際貿易促進協会総裁などを歴任し、中国、ソ連との友好関係維持につとめた。

大学紛争始・1965 = 81歳：

**日中国交回復**1972 = 88歳：

中国との国交回復にこぎつけた田中角栄が訪中の挨拶に訪れた。

**石油ショック**1973 = 89歳：**没した。**

中公新書「石橋湛山」、「日本史重要人物101」、「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、「日本の群像」、山田風太郎「人間臨終図巻」